

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	マチテラス日進	階数	地上1階
建設地	愛知県日進市本郷町前田33番始め15筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	2,137 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年
建物用途	物販店, 飲食店, 集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年2月1日
敷地面積	11,771 m <sup>2</sup>	作成者	濱崎 紗知子
建築面積	2,366 m <sup>2</sup>	確認日	2024年2月6日
延床面積	2,270 m <sup>2</sup>	確認者	景山 知弘



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.7 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆☆☆ 100%超: ★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①参照値: 100%</li> <li>②建築物の取組み: 80%</li> <li>③上記+②以外の: 78%</li> <li>④上記+: 78%</li> </ul> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.4</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.9</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.3</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3</p>

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮 3.8</p>	<p>③敷地内の緑化 1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 16.3 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用 3.3</p>	<p>④地域材の活用 4.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt; 愛知県材使用</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt; 愛知県材使用</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
マチテラス日進

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>												
<b>Q1 室内環境</b>												
<b>1 音環境</b>												
1.1 室内騒音レベル		0.1	2.5	0.15								2.5
1.2 遮音		3.0	3.0	0.40								
1 開口部遮音性能		0.4	2.8	0.40								
2 界壁遮音性能			3.0	0.94								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			1.0	0.06								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												
1.3 吸音			1.0	0.20								
<b>2 温熱環境</b>												
2.1 室温制御		0.3	3.2	0.35								3.2
1 室温		0.5	3.4	0.50								
2 外皮性能	Low-E複層ガラス、高断熱化、大庇等により外皮負荷を低減	3.0	3.0	0.43								
3 ゾーン別制御性		3.0	5.0	0.22								
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.36								
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.20								
3.0 3.0		3.0	3.0	0.30								
<b>3 光・視環境</b>												
3.1 昼光利用		0.2	3.0	0.25								3.0
1 昼光率		0.5	3.0	0.52								
2 方位別開口		3.0	-	-								
3 昼光利用設備		3.0	3.0	1.00								
3.2 グレア対策												
1 昼光制御		5.0	3.0	-								
3.3 照度		3.0	-	-								
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.48								
<b>4 空気質環境</b>												
4.1 発生源対策		0.2	3.3	0.25								3.3
1 化学汚染物質		0.5	3.0	0.50								
4.2 換気		3.0	3.0	1.00								
1 換気量	単位風量を30m <sup>3</sup> /人を確保	0.3	3.5	0.30								
2 自然換気性能		3.0	4.0	0.50								
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-								
4.3 運用管理		3.0	3.0	0.50								
1 CO <sub>2</sub> の監視		0.2	4.0	0.20								
2 喫煙の制御	館内禁煙	3.0	3.0	0.50								
3.0		5.0	5.0	0.50								
<b>Q2 サービス性能</b>												
<b>1 機能性</b>												
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	4.6	0.40								4.6
1 広さ・収納性		0.4	4.0	0.40								
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-								
3 バリアフリー計画	独自 建築物移動等円滑化誘導基準を満たしている	3.0	4.0	1.00								
1.2 心理性・快適性		0.3	5.0	0.30								
1 広さ感・景観 (天井高)	売り場の天井高さ、3.6m以上	3.0	5.0	0.16				3.0				
2 リフレッシュスペース	レストスペースが売り場面積の4%以上	3.0	5.0	0.09								
3 内装計画	天井仕上に木を使用	3.0	5.0	0.75								
1.3 維持管理		0.3	5.0	0.30								
1 維持管理に配慮した設計	メンテナンスが少なくなる仕上げを使用	3.0	5.0	0.50								
2 維持管理用機能の確保	トイレ毎にSKを設置	3.0	5.0	0.50								
<b>2 耐用性・信頼性</b>												
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.9	0.31								3.9
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する	0.4	3.8	0.48								
2 免震・制震・制振性能		3.0	4.0	0.80								
3.0		3.0	3.0	0.20								
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	4.2	0.33								
1 躯体材料の耐用年数	住宅の品質管理確保の促進に関する法律の評価基準で等級3相当		5.0	0.23								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	30年以上		5.0	0.23								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出部はステンレスダクトを使用。排風機は水抜き管を接続		4.0	0.08								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	系統毎にバルブを設置		5.0	0.15								
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23								
2.4 信頼性		0.1	3.4	0.19								
1 空調・換気設備	一部の系統の空調に非常電源を供給	3.0	4.4	0.20								
2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20								
3 電気設備		3.0	3.0	0.20								
4 機械・配管支持方法		3.0	4.0	0.20								
5 通信・情報設備	耐震性能に準じた支持方法を採用	3.0	3.0	0.20								

<b>3 対応性・更新性</b>					0.2	3.0	0.29	-	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり					0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				3.7m以上	-	5.0	0.24	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率0.136	3.0	4.0	0.76	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	2.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-	0.30	-	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	愛知県材使用	-	5.0	0.40	-	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	天庇を計画	-	5.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>						-	-	-	-	-	3.5
<b>LR1 エネルギー</b>						-	0.40	-	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.73	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.73	3.0	4.4	0.30	-	-	-	4.4
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング					-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>						-	0.30	-	-	-	3.2
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水				自動水栓の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.3	0.63	-	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減					-	3.0	0.09	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	-	-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.26	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	排水用硬質ポリ塩化ビニル管・排水管	3.0	3.0	0.26	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.07	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	躯体と仕上材が容易に分別可能	3.0	4.0	0.32	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>						-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率78%	-	3.8	0.33	-	-	-	3.8
2 地域環境への配慮					0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止				燃焼機器の使用なし	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.7	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	管理用車両、荷捌き用車両の為の必要駐車場確保	-	5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				ごみを回収するためのストックスペースを確保	-	4.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策					-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.3</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.9	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:16.3%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			<b>4.0</b>
			(評価ポイント)
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-
			愛知県材使用
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-
			愛知県材使用

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 マチテラス日進

計画上の配慮事項	
総合	複数の用途が共存するため機能的なゾーニング計画としている。 敷地内の公園、広場、半屋外空間と連続的に建築物を配置して、多彩な活動が広がる内と外がつながる建築計画としている。 利用者にわかりやすく、管理者に使いやすい動線計画としている。
Q1 室内環境	公園や広場側の外壁は窓を多く設置し、自然光を十分に取り入れる計画とする。大開口部の窓はLow-e複層ガラスとし、外皮性能に考慮している。 仕上材はF☆☆☆☆を全面的に使用している。
Q2 サービス性能	段差のない平屋建でバリアフリーに配慮し、用途毎に即した十分な天井高さを計画している。 維持管理機能に優れた配慮を複数取り入れている。 建築基準法の25%増の耐震性を確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内に広く設けた公園、広場(防災ヘリポート)、駐車場内の各所を緑化している。 周囲の街並みに配慮した配置、景観としている。
LR1 エネルギー	全館にLED照明を採用している。 主な空調対象室には全熱交換器を採用し外気負荷を低減している。 排熱回収型の高効率なガス給湯器を採用している。 太陽光発電設備を計画し、発電した電力はすべて建物で消費する計画としている。
LR2 資源・マテリアル	排水管にリサイクル塩ビ管を採用している。 主要な大便器に擬音機能を有する設備を採用している。 主な手洗い、洗面器に自動水洗を採用している。 木材は、あいち認証材を採用している。 あいくる材を採用している。
LR3 敷地外環境	適切な駐車スペース、駐輪スペースを確保し、主要道路からの出入口の位置に配慮している。
その他	